

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社 ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地	三重県松阪市射和町644-2		
自己評価作成日	平成24年12月18日	評価結果市町提出日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyousoCd=2470700986-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の家庭的を主体に日々の生活の中で(その人らしさ、思いを大切にし、笑いのある暮らし)そんな当たり前の生活をスタッフが常に寄り添いながら協力支援することを念頭に介護させてもらってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部より車で30分程の場所に位置する事業所は、市を代表する一級河川が近くを流れる、静寂で豊かな自然に恵まれながらも、大型ショッピングセンターやバイパス道路が程近く、風土性と利便性を兼ね備えた環境を有している。施設長・管理者を始めとする職員が比較的若い年齢である為、新しい介護技術や行動の瞬発能力が高く、若い目線でのアイデアを取り入れた、活気のある積極的な支援が行われている。管理者は、入居者に寄り添い、個々の意見に耳を傾けた画一的でない個別支援に力を入れており、入居者がその中で安心感を持って寛ぐ事の出来る様、職員一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を一つに絞り、いつでも目にはいる場所に掲げ基本姿勢とし共有することは出来ているが、業務に流されてしまっている時もあり、十分とはいえない。	5つの事業所理念の他に、職員が協議し定めた年間理念を掲げ、業務に忙殺され見逃しがちな理念を、毎月のカンファレンスや日々のミーティングや支援の中で繰り返し振り返り、再認識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入や地域行事にも積極的に参加している。 日常的に周辺の方と挨拶や声掛けなどで交流に務めている。	近隣小中高等学校との交流や、小学校文化祭への手芸作品出品の他、事業所でのうさぎ祭(運動会)では地域住民も参加する等、積極的な交流を図っている。また、公民館では職員が体操やレクリエーションを地域住民対象に行っており、地域貢献にも力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校等の慰問や体験学習・校外学習として施設訪問してもらい、理解を深めてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、現状のグループホームの取り組み、行事、利用者の状況を報告し、課題等、参加者から助言や意見をもらいながら改善策としてサービスに生かしている。	現況報告の他、消防を招く等変化に富んだ議題に留意している。また、民生委員からの要望により、住民対象に介護保険制度の説明会を開催する等、会議を地域全体の意識向上に活かす取り組みも成されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実情・サービスの取り組みを理解して頂いており、事業において疑問等があった場合には積極的に連絡して協力を得ている。	市担当者とは、日頃より心おきない関係が構築されており、運営推進会議への出席の他、市が主催する介護サービス連絡協議会に参加し、情報交換や勉強会を通して協働する事によりサービスの向上に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての勉強会を実施。センサーの使用は継続しながらも、ベッドから布団への変更等拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしない姿勢を有しており、研修会・勉強会での意識付けを常に職員に行い、徹底している。身体のみならず、精神的拘束や言葉での拘束にも留意した支援にも配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な全体での勉強会と、毎月のミーティングでも虐待がないか確認している。業務中も職員同士、注意をしようようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がおらず学ぶ機会もなかった為、今後研修等があれば参加を促していかなければいけない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書に目を通して頂き、締結時にはご理解頂けるように疑問点・不安を解決できる十分な時間を設け、説明させて頂いている。金額については別紙も参照の上細かく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の生活の中で要望や思いを聴く時間を作り、家族には面会時その都度聴くようにし、必要に応じ職員・管理者共に検討し改善出来ることは改善している。	面会や行事時の要望・意見聴取の他、家族に日報のコピーや写真入りの個人別新聞を送付し、そのきめ細やかなサービスにより、安心感を持って入居を継続する事が出来る様、配慮が成されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に全体でと、その他約1ヶ月に1回個々に職員の提案や意見を聞き、反映するように努めている。	職員との日頃の心おきない会話の中で、意見や要望を汲み取る他、月2回の職員会議や個別面談の機会を設け、より掘り下げた形での意見の集約に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入り、個々の勤務態度や能力等を把握・考慮し、担当や賞与に反映している。適宜面談等も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の施設内勉強会の参加、外部への勉強会は個々の能力に合わせ管理者が人選し参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会や外部の勉強会に参加し、交流の機会を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の聞き取り時、本人の要望やこれまでの生活歴や習慣・家族様との関係を把握し、入所後少しでも不安や混乱が引き起こされないよう、寄り添いながら傾聴していく。小さなサインや会話を大事にしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり、家族様の様々な思いなども把握ししっかり話し合いをし、少しでも安心していただける様な環境・関係作りができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の思いを傾聴し、サービスの提供をさせて頂き選択して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中、出来ることはお願いし、お互い助け合いながら生活しているが、業務に流されてしまったり、上から目線の声掛けをしてしまっていることもある為、注意が必要。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者にとって大切な存在であることを十分理解しており、家族様にも協力を依頼し、家族様と一緒に過ごす時間や空間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力によって、月に1度は自宅に帰られ、以前の様な生活を楽しまれている。友人や兄弟等の面会もある。	家族や知人の面会の他、自宅近くへのドライブや墓参り等、入居者の要望に沿った支援に心がけている。また、昔の写真を用いた回想法により、懐かしい記憶を掘り起こす機会に繋げる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日によって関係性が変わってしまうこともあるが、その都度職員が間に入り対応し、ひとつの家族だと思って頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転院等があった場合、施設でのケアが適切に行われるように、支援するように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に過ごす時間を大切にし、利用者一人一人の話をよく聞き、会話や表情から要望や意向を汲み取るように努力している。	入居者一人ひとりに寄り添う支援の中で、その思いを汲み取り、時には入居者個々の性格に配慮したコミュニケーション技術を用い、出来る限り希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前家族様から情報を得たり、入所後も本人や家族様から日々の会話の中で情報を聞かせてもらい、活かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日誌、申し送り等をしっかり行い、日々の小さな変化にも気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはモニタリング時、家族様には面会時、意向や思いを聴く機会を作り、それをもとにカンファレンスにて全体で意見交換し、介護計画を作成している。	家族の面会時等に、出来る限り入居者本人立ち会いの下、介護計画についての要望を聞き、職員全員が出席する毎月のモニタリングにて反映させ、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入し、情報を共有は出来ているものの、見直しまでは出来ていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り病院や外出、買い物等本人や家族と相談しながらニーズに添えるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近辺の関わりを大切にし、幼稚園や学校等の慰問、文化祭に向けて出展するものを作ったりする中で楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、症状に合った病院・入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように支援している。24時間対応を協力医に依頼し、適宜受診・往診を依頼している。	協力医は24時間体制であり、毎月往診も行っている為、安心感を持って医療が受けられる体制が整えられている。また、かかりつけ医受診の場合には情報提供書が発行されており、情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制であり、状態変化や気づきに関し、相談や報告が出来、それについて指示や看護等が受けれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを活用し情報を提供。入院中も面会時に病棟看護師から情報を得たり、病院・家族と連絡を取り、退院後のフォローがしっかり行えるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時にはかかりつけ医・家族と適宜連絡、話し合いの場を持ち、方針を決め共有し適切な対応をとる。マニュアル有り。	これまでに看取りの経験は無いが、看取りの指針は作成されており、入居契約時に看取りについての説明を行っている。施設長が看護師の資格を有しており、入居者・家族の要望があった時点で迅速に対応する事が出来る体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で学んではいるが、実際に落ち着いて対応出来るかどうかは不安である。定期的に実践や勉強する機会を設けていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練・避難訓練を行なっている。地域の協力は可能である。	年に2回の防災訓練の内、1回は消防を招いた訓練が行われており、夜間想定での訓練も成されている。また、近隣住民への訓練参加の勧誘も行い、地域ぐるみでの防災意識の啓発に努めている。	更なる意識向上を目指し、年に2回の訓練に満足する事無く、小規模な訓練等を積み重ね情報を収集し、反省点を次回訓練に活かす様な体制を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一同理解はしており心掛けてはいるが、日々一緒に生活する中で、慣れあいなどが出てしまい言葉がきつくなったり、対応がずさんになってしまうことがある為、定期的に会議の場で話をしたり、職員同士でも注意し合うようにしている。	職員は特に、言葉遣いや入居者の呼び名に、親しみやすさを越えた馴れ合いや、上位に立ったような物言いにならぬ様留意し、日々の支援にあたっている。また、会議や勉強会では、接遇について採り上げ、職員意識の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの利用者様にでも聞くをベースとし、返答が出来にくい方に関しては2択の質問にする等答えやすい状況を作れる様、声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来得る限り本人様のペースで過ごして頂けるよう援助しているが、業務優先(施設側の都合)になってしまうことが多くみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、好みの衣類を選んで頂いている利用者様もみえるが、全員には出来ていない。外出時などはマニキュアやいつもと違ったおしゃれをして楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事・おやつ作りは分担しながらも協力してもらうよう援助している。利用者の中には日課のように自主的に手伝ってくださる方もみえる。	平日昼食は献立や材料を外部委託しており、手作りの温もりが感じられながらも、栄養面に配慮されたメニューとなっている。おやつ作りは入居者が参加し、時には外食を取り入れる等、食を楽しむ事が出来る支援が成されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせ食事形態を変更したり、嗜好品や食の好みを把握し、食事量を確保している。水分もチェック表を使用し、一日の必要な水分量(約1000cc)の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・就寝前の義歯洗浄の実施。自歯のある方に関しても黒井歯科の往診による定期的な口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄が可能なよう、なおかつなるべくリハビリパンツを使用しない様介助している。約2時間毎のトイレの声かけも行なっている。	日々の排泄チェック表に介護記録を参照する事により、入居者の心理的な側面や癖を把握した、より細やかな誘導支援を行っており、おむつ着用からほぼ自立に改善された例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動・食物(牛乳等)で予防するように努めているが、それでも困難な場合、Drとも相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のタイミングでの入浴は出来ておらず、曜日・時間帯は施設側で決めてしまっている。体調に合わせ、入浴日の入れ替えや清拭・足浴等に変更し対応している。	毎日沸かす個浴では、1人につき週3回程の入浴支援を行い、入浴拒否がある場合には声掛けに工夫する等、清潔保持に努めている。また、併設するデイサービスに機械浴が設置されており、その利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝・就寝時間は本人の希望・ペースに合わせている。日中も体調に合わせて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カードックスの利用・薬箱への個数記入、介護日誌への記入。変更等があった場合もその都度訂正し職員に周知している。症状などは適時Drに相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意な事や力に合わせて役割を持って頂くよう援助し、外出やレクにて気分転換がはかれるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時にいけない時もあるが、周辺地域へのドライブや家族との外出等、1ヶ月に1.2回は外出している。	近隣にある寺院や道端の花を眺めながらの日常的な散歩の他、玄関先での日光浴を兼ねたティータイム等、個々の能力や希望に沿った支援を行っている。また、季節の花見や遠足等遠出の機会を持ち、日常を忘れさせる楽しみを提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に支援させてもらっている。個人で持ってみえる方はトラブルの原因にならないよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望されるうえで家族の了解がないと難しい為、了解を得る声かけをするように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、定期的な大掃除(フィルター・ワックス等)にて清潔を保ち、季節に合わせた壁画や花・果物等を飾っている。	居間には、入居者の作品が華美ではない程良い間隔で掲示され、温かさの中にも清潔感が感じられる空間を演出している。また、玄関等には持ち込まれた花が生けられ、入居者や訪れる人の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く一人になることは困難。共有空間内で気の合う方同士、席を近くにしたりなどの配慮はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で利用者の使っていたものや思い入れのあるものを持参して頂き、安心して過ごせる様工夫している。	すっきりとした印象の居室は、洗面台・ベッド・クローゼットが整備され、持込みに制限は無い為、入居者の生活歴に合わせた、様々なコーディネートが楽しめる仕様となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ないこと、解らないことを把握し、出来るよう、解るようになるよう援助している。公共の場は表札や飾りを使うなど工夫している。		